

3-2 人と、心を育てる図書館へ 「大阪市子ども読書活動推進計画」

未来を担う子どもの心を育て、豊かな感性と創造力を育む

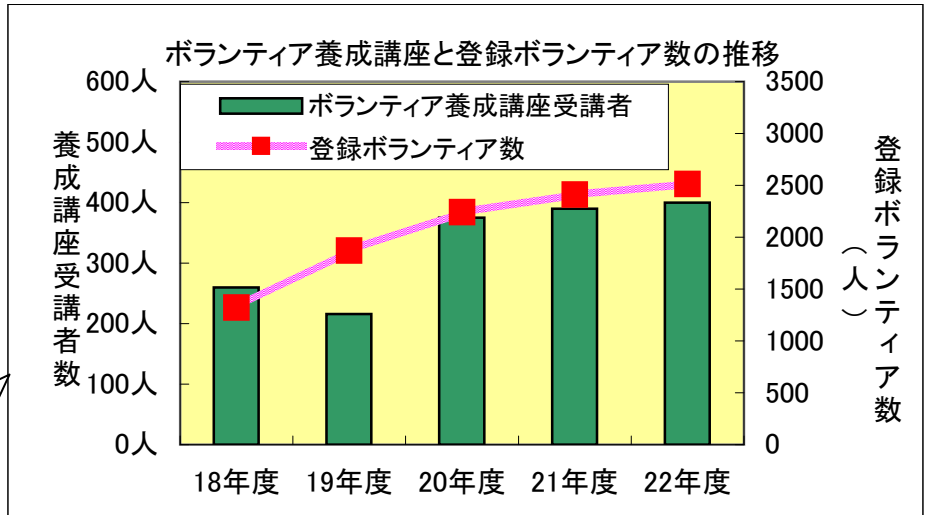
戦略目標		◆ 市民ボランティアとの協働・読書環境の整備						
評価	進捗	<p>○市民ボランティアの養成拡大 読書支援活動ボランティア養成講座を年間300人のボランティア増を目標に継続開催。</p> <p>○幼児期読書環境整備事業対象施設拡大 幼児期から子どもの読書体験を豊かに育むことを目的に、全区の幼稚園、保育所、子ども子育てプラザ、子育て支援センター、つどいの広場等、順次対象を拡大し、希望する施設へ図書の本とボランティアの派遣を実施。</p> <p>○OneBookOneOSAKA事業 平成21年度より、市民の投票により大阪市の1冊の絵本を選ぶことを通して、読書機運を高めることを目的とした「OneBookOneOSAKA事業」を実施。図書館だけでなく、幼稚園、保育所、学校や区役所、子育て支援施設など600ヶ所の施設より投票に関わる協力を得て実施。各区の読書支援活動ボランティアや子ども運営委員などが企画から運営、実施に至るまで参加するOneBook関連イベントなどにより認知度も上昇。</p>					○	
	成果	<p>・図書館のボランティア養成講座の受講者を中心に各区でボランティアグループが生まれ、地域の図書館を拠点に学校や地域でも活発に活動が広がり、図書館の読書普及事業を支えている。登録ボランティア数は、平成18年度末1320人から、22年度末には2513人に達し、22年度の子ども向け読書普及行事開催数は、ボランティア活動報告も含めると、18年度比86%の増となる。</p> <p>・保育所や幼稚園、子育て支援施設等への絵本セットの配本対象施設の拡大とともに、ボランティア派遣による絵本の読み聞かせやパネルシアターなどの読書普及活動の実施回数は、18年度から22年度にかけて、58%増となった。</p> <p>・OneBookOneOSAKA事業については、第1回では8,463票、第2回では1.5倍の13,012票の投票数を獲得。市民ボランティアの協力のもと、全区でOneBook関連イベントを開催し、5300人の参加者を得た。また、OneBookトップランキングの絵本の貸出も増加した</p>					○	
評価指標名		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	目標	
進捗指標	市民ボランティアの養成講座開催回数	82回	98回	126回	102回	86回		
	幼児期読書環境整備事業の対象施設	全区の公立幼稚園、保育所	全区の子ども・子育てプラザも対象に	私立幼稚園にも呼びかけ	私立幼・保育園にも呼びかけ	子育て支援施設に拡大(564施設)	564施設	
	OneBookOneOSAKA事業	投票協力依頼組織	—	—	—	550施設	600施設	
	イベント実施	—	—	—	15回	66回		
成果指標	ボランティア養成講座受講者	260人	216人	375人	390人	400人	毎年300人	
	登録ボランティア数	1,320人	1,870人	2,240人	2,410人	2,513人	2,500人	
	子ども向け読書普及活動実施回数(ボランティア報告含む)	2,752回	3,456回	3,476回	4,655回	5,124回		
	幼児期読書環境整備事業	配本冊数	34,278冊	19,289冊	35,674冊	30,791冊	33,287冊	
		ボランティア派遣	332回	397回	420回	520回	524回	
	OneBookOneOSAKA事業	総投票数	—	—	—	8,466票	13,014票	1万票
イベント参加者数		—	—	—	400人	5,300人		

■ 市民ボランティア養成

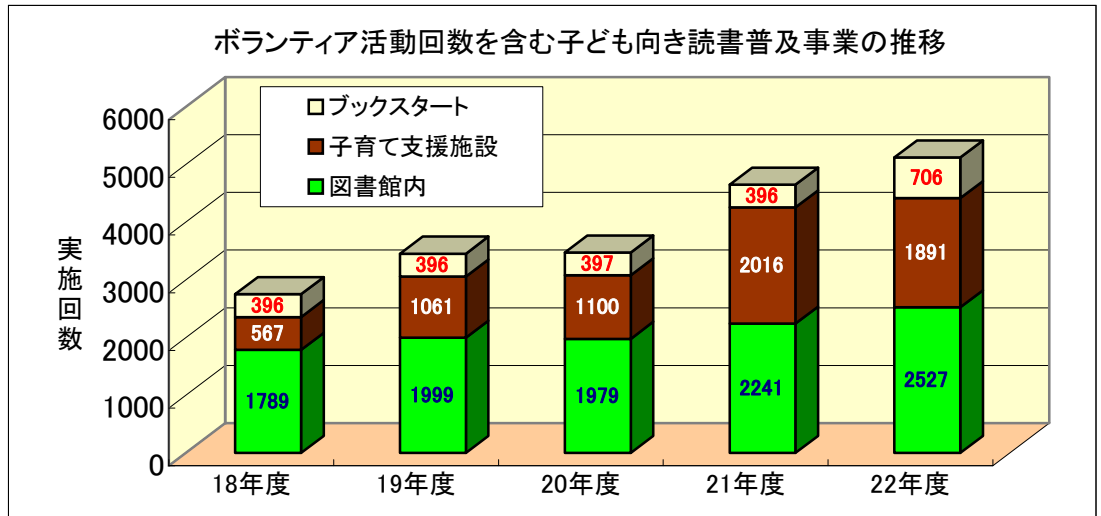
市民ボランティア人数
18年度：1320名
↓
22年度：2513名

19年度は、図書館主催の養成講座受講者数は少ないものの、学校図書館モデル事業のボランティア養成講座受講者の中で、図書館でもボランティア活動を開始される方が増加した。

実績値

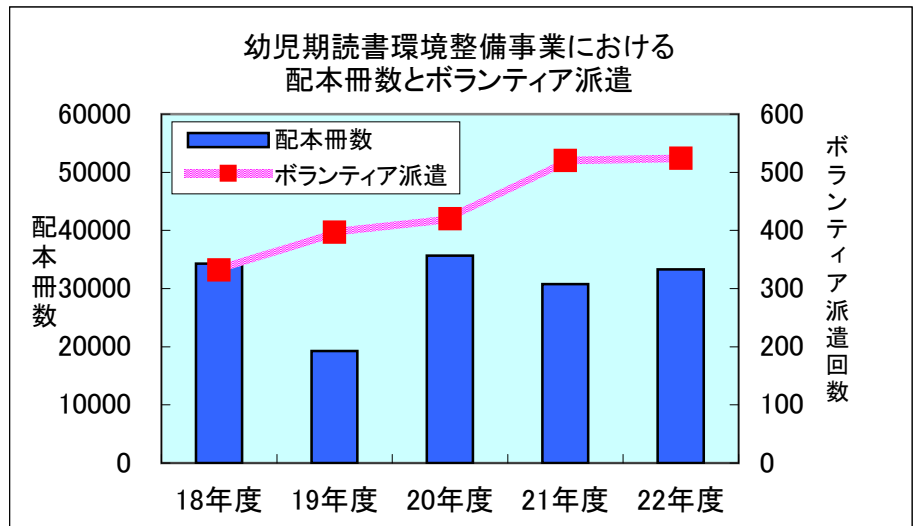


■ 子ども向け読書普及事業の推移(ボランティア活動報告含む)



■ 幼児期読書環境整備事業

・18年度までは施設への貸出期間は1ヶ月で、年2回配本。
・19年度以降、貸出期間を4～5ヶ月と長くし、概ね年1回配本に変更。(H20年度のみ年2回)
・配本冊数は伸びていないが、配本施設での利用期間は長くなり、施設利用者への貸出も可能になっている。
・施設への貸出冊数については、年度毎で調整。



今後の取組

【ボランティア支援】

・学校図書館支援ボランティアとの連携、交流の場の設定。
・学校図書館支援ボランティアや既存NPOを含めたボランティアグループの成果を把握し、引き続き、ボランティア養成講座を開催するとともに、各グループのニーズを把握したステップアップ講座や交流会を開催するなどの支援を行いながら、助成事業の紹介や外部の委託事業の活用など、さらなる支援・連携強化を図る。

【幼児期読書環境整備事業】

・配本とボランティア派遣を現行の高水準を維持しながら、施設の要望も把握し貸出冊数・期間を柔軟に調整していく。

【OneBookOneOSAKA事業】

・さらなる効果検証と継続の可否、運営方法等について、各区の読書支援活動ボランティアや子どもの運営委員が参加の「OneBookOneOSAKA事業運営委員会」等で検討していく。